

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 9 月 3 日 (2020.9.3)

【公開番号】特開 2019-44794 (P2019-44794A)

【公開日】平成 31 年 3 月 22 日 (2019.3.22)

【年通号数】公開・登録公報 2019-011

【出願番号】特願 2017-165300 (P2017-165300)

【国際特許分類】

F 1 6 H 45/02 (2006.01)

F 1 6 F 15/134 (2006.01)

F 1 6 F 15/139 (2006.01)

【F I】

F 1 6 H 45/02 Y

F 1 6 F 15/134 B

F 1 6 F 15/134 A

F 1 6 F 15/139 B

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 21 日 (2020.7.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

この構成によれば、摩擦発生機構によってピストンにヒステリシストルクが発生するため、ピストンの共振を防止することができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 2】

シールリング 8 2 は、環状であり、環状溝 8 1 内に配置されている。シールリング 8 2 は、この環状溝 8 1 内において、軸方向に移動可能に配置されている。シールリング 8 2 の外周面 8 2 3 は、外殻の外周壁部 1 1 0 の内周面と当接している。すなわち、シールリング 8 2 の外径は、外周壁部 1 1 0 の内径と略等しい。このため、シールリング 8 2 が軸方向に移動するとき、シールリング 8 2 は外周壁部 1 1 0 の内周面上を摺動する。なお、本実施形態では、シールリング 8 2 の外周面 8 2 3 は、インペラ 3 の筒状部 1 0 b の内周面と当接している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 1】

次に、ロックアップ装置 7 の回転数が所定値以上になると、ロックアップ装置 7 がオン

状態となり、ピストン 3 2 がタービン 4 と摩擦係合する。この結果、エンジンからフロントカバー 2 に入力されたトルクは、ダンパ機構 3 3、ピストン 3 2、タービン 4 を介して、トランスミッションの入力軸へと出力される。